

8月24日が七夕!?

七夕といえば7月7日、織り姫星と彦星が年に一度だけ出会える日ですよね。でも、この日の夜に織り姫星（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）を見たことはありますか？ 毎年、雨が降っているような気がする...と思う方も少なくないでしょう。7月7日といえば、沖縄や北海道を除く日本のほとんどの地方で梅雨の真っただ中。なぜ梅雨の時期に星にまつわるお祭りをするのでしょうか？ その謎に迫ってみましょう。

七夕は中国からやってきた

七夕のお祭りは、もともとお隣の国、中国（当時は唐）の宮廷行事「乞巧奠（きこうでん）」が奈良時代ころに伝えられ、朝廷の公家たちを中心に行われるようになったものだと言われています。

「乞巧奠」とは機織りの上手な織り姫にあやかって女性たちが裁縫の上達を願う行事で、針に五色の糸を通し、庭に酒や肴、瓜の実を供えたそうです。日本でも祭壇に五色の布や糸、茄子や瓜などのお供え物を備え、水を張った“たらい”に星を映し、梶の葉に歌を詠んで奉納していました。

江戸時代になると、民衆の間にも七夕の行事が広まり始め、笹飾りを作り、芸事などの上達を願うようになって、現在のような形に定着したと言われています。

ちなみに、なぜ七夕と書いて“たなばた”と読むのでしょうか？ それは、日本には「棚機津女（たなばたつめ）」という信仰があり、それと結びついたためと言われています。「棚機津女」とは、7月7日に集落の中から選ばれた娘が棚機津女として、水辺に設けられた機家（はたや）で神に捧げる衣を織り、その衣を受け取った神が集落に豊かな実りを与え、穢れを持って立ち去るというものです。



東京都杉並区にある大宮八幡宮の乞巧奠祭壇



伊東深水「銀河祭り」(東京藝術大学 蔵)

江戸時代の女性たちは、たらいの水に星を映して、その上で針に糸を通し裁縫の上達を願ったという。

今年の七夕は8月24日!?

では、なぜ七夕は7月7日という梅雨時に行われるのでしょうか？ それは、七夕が伝わった奈良時代ころと現在では使っている“暦”（カレンダー）が違うからなのです。つまり、本来は当時の暦で7月7日であって、今の暦の7月7日ではないんですね。当時の暦の7月7日は、今年の場合、8月24日になります。このように昔の暦であれば7月7日は梅雨時ではありません。晴れた空に織り姫星や彦星を探せることの方が多かったことでしょう。

七夕まつりをいつ行うかは、実は地方によってさまざまです。平塚の七夕まつり（湘南ひらつか七夕まつり）は、7月7日という日付を重視して今のカレンダーの7月7日に開催しています（この例がもっとも多いです）。それに対し日本三大七夕まつりのひとつ、仙台七夕まつり（仙台市）などは月遅れの8月7日に行われます。平塚市内でも農村部ではかつて月遅れで七夕のお祭りが行われていたそうです。また、当時の暦の日付で七夕を祝い、星空を見上げようという企画も行われるようになってきました。



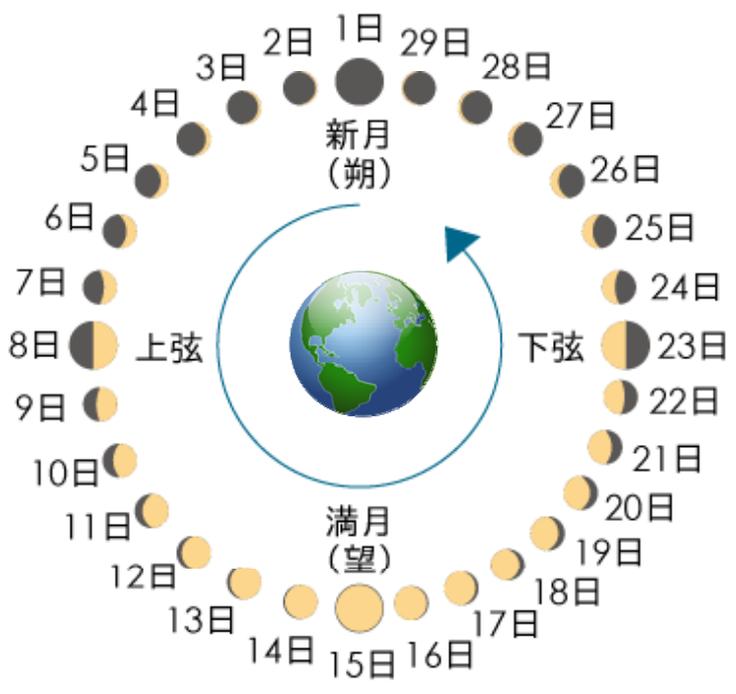
湘南ひらつか七夕まつり



仙台七夕まつり
(仙台七夕まつり協賛会)



平塚・農村部の七夕飾り
農村部では竹飾りを、七夕の翌日に川に流したり、田に立てて虫除けにしたりしていました。



旧暦での日付と月の形の対応

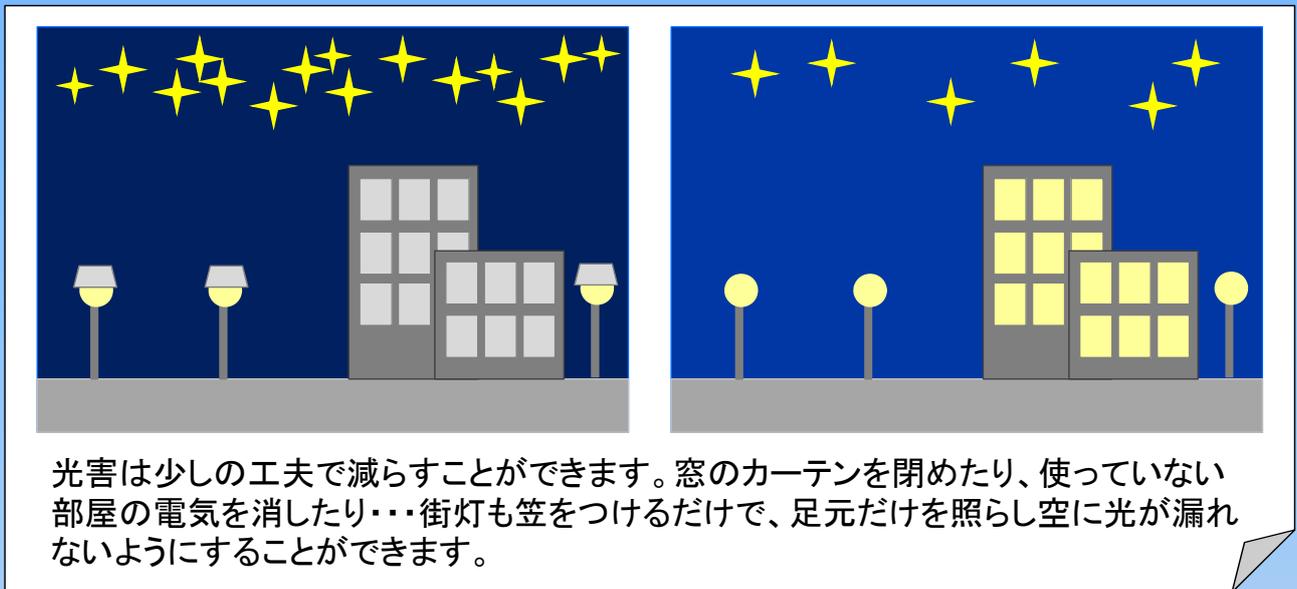
当時の暦はどんなもの？

現在の日本では、太陽の動きを基準とする太陽暦（グレゴリオ暦）を採用しています。しかし明治五年の改暦以前は、日本では月の満ち欠けを基準とする太陰太陽暦がつかわれていました（これを旧暦といいます）。新月の日が一日（朔日）です。月の満ち欠けの周期は29.5日なので、一か月を29日と30日としました。しかしこれでは、一年が354日となり、太陽の動きを元にした一年の長さ365日と比べると11日ほど短くなってしまいます。そのため三年に一度、閏月を入れて調整していました。

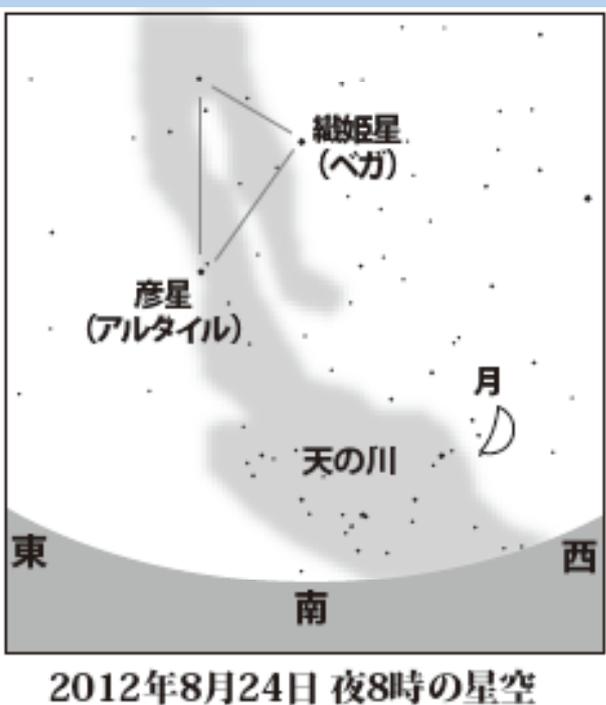
七夕の夜は電気を消して星を見よう！

今の暦では、7月7日は雨や曇りの日のことが多いですが、旧暦で七夕を祝えばそんなことはありません。そこで、旧暦の7月7日、今年は8月24日（金）に、「家の明かりなどを消して夜空を見上げよう！」というキャンペーンが行われます。それが「伝統的七夕ライトダウン2012」です。

この時期（8月下旬）であれば、夜更かしをしなくても七夕の星たち、織り姫星（織女星：こと座のベガ）と彦星（牽牛星：わし座のアルタイル）を見ることができます。二人の間には天の川が流れているはずですが、街明かりの多い都会ではほとんど見ることはできません（街明かりで空が明るくなり、星が見えにくくなることを「光害」といいます）。そこで、少しでも天の川が見える星空に近づけようということで、ライトダウン・キャンペーンとなっているのです。



このキャンペーンに合わせて、各地でさまざまなイベントが開催されます。「伝統的七夕ライトダウン2012」のwebページで探して、ぜひ参加してみてください。平塚市博物館でもイベントを企画しています（詳しくは4ページをご覧ください）。



織り姫星と彦星を探そう！

七夕の星たちは空のどこに見えるのでしょうか？ 8月下旬の夜20時ころ、南の空を向いて頭の真上を見上げると、ひときわ明るく輝く青白い星を見つけることができます。それが織り姫星・こと座のベガです。その東側（左手側）を見ると、ベガを含む明るい星三つで大きな三角形が作れます。これが夏の大三角。そのうち、いちばん低いところに見えている、ベガよりもやや暗い白っぽい星が彦星・わし座のアルタイルです。空が暗いところならば、夏の大三角の中を突っ切るように天の川が見えるはずですが。そして、旧暦は日付と月の形が一致していますから、新月より7日目の月...半月前の月が南西の空に見えているはずですが

☆伝統的七夕(8月24日)の夜に、みんなで灯りを消そう。

☆短冊にねがいごとを書いて、夜空を見上げよう。

☆星空に親しむイベントに参加しよう。

☆平塚市博物館でのイベント☆

8月24日(金) 18時~19時

「プラネタリウム講演『暦と伝統的七夕』」

博物館3階 プラネタリウム室

当日受付(定員70人)

2012

8/24(金)

☆キャンペーン期間☆

8月18日(土)~8月26日(日)

織姫星と彦星をさがしに
灯りを消して
夜空を見上げてみませんか？

主催 伝統的七夕ライトダウン2012推進委員会
共催 宇宙航空研究開発機構 / 自然科学研究機構 国立天文台 /
スター・ウィーク実行委員会 / 南の島の星まつり実行委員会 /
星空を守る会 / 星空公団
後援 日本天文学会 / 日本プラネタリウム協議会 / 日本公開天文台協会 /
一般社団法人 Think the Earth / 天文教育普及研究会 / 日本惑星科学会 /
地球電磁気・地球惑星圏学会 / 高校生天体観測ネットワーク /
清里スターフェスティバル実行委員会 /
天文学普及プロジェクト 天プラ / 日本天文愛好者連絡会
協力 環境省 水・大気生活環境室 ほか

伝統的七夕ライトダウンキャンペーン

つながろう七夕

よみがえれ天の川